

【令和８年度第１回足立区区民評価委員会】会議概要

会 議 名	令和８年度第１回足立区区民評価委員会		
事 務 局	政策経営部政策経営課		
開 催 年 月 日	令和８年４月３０日（木）		
開 催 時 間	午前９時３０分 ～ 午前１０時２５分		
開 催 場 所	足立区役所中央館８階 特別会議室		
出 席 者	藤後 悦子 会長	荻原 雅史 副会長 (オンライン出席)	石田 三成 委員
	桑原 千明 委員	島田 将輝 委員	田中 千裕 委員
	谷 まどか 委員	中村 重男 委員	野倉 優紀 委員
	野本 愛 委員 (オンライン出席)	松原 博 委員	丸山 順一 委員
	柳原 由美子 委員	渡辺 大介 委員	
欠 席 者	清水 潤子 委員	小泉 友恵 委員	虎岩 太朗 委員
会 議 次 第	別紙のとおり		
資 料	資料１ 資料２ 資料３ 資料４ 資料５	令和８年度足立区区民評価委員会委員名簿 今年度の評価活動について 重点プロジェクト事業評価 年間の評価活動の流れ 各分科会評価活動スケジュール 足立区区民評価委員会条例施行規則	
そ の 他			

(審議経過)

○事務局(政策経営課長) 定刻となりましたので、ただいまより令和8年度第1回足立区区民評価委員会を開催いたします。

私は、本日進行を務めます政策経営課長の鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、現状、11名の委員の皆様がこの会場にご参加いただき、2名オンライン参加いただいております。丸山委員は少し遅れた後ご参加いただけるということでご連絡いただいております。3名の委員の皆様は本日ご都合により欠席とご連絡いただいております。

本委員会並びにこれから行われます分科会につきましては、足立区区民評価委員会条例施行規則第4条の規定に基づきまして、公開を原則とさせていただきます。会議記録、委員名簿も含めて公開となりますので、その点ご了承ください。ければと思います。

また、会議記録作成のため、委員の皆様のご発言を録音させていただきますことも併せてご了承ください。ければと思います。

よろしくお願いいたします。

それでは、早速、次第に沿って本日の議事を進めさせていただきます。

まず、次第の1番、委嘱状の交付でございます。

本日は、今年度から新たに委員としてご就任いただきます公募委員6名の皆様に委嘱状を交付させていただきます。

なお、本日欠席された委員には後日委嘱状を郵送させていただきます。本日はお名前の読み上げのみとさせていただきます。

それでは、近藤区長、ご準備をお願いいたします。

(区長から委嘱状を交付)

○事務局(政策経営課長) 次に、次第の2番に移りたいと思います。諮問書の交付でございます。

近藤区長より藤後会長に区からの諮問書を手交いたします。

それでは、藤後会長、区長、よろしくお願いいたします。

(諮問書交付)

○事務局(政策経営課長) それでは、ここで、第1回区民評価委員会の開催に当たりまして、近藤区長よりご挨拶申し上げます。

○近藤区長 おはようございます。

いよいよ本日から令和8年度の区民評価委員会が始まってまいります。今回は新しい区民評価委員の皆様方6名に加わっていただきまして、全部で17名体制で評価を頂くわけでございます。令和7年度の評価ということになりますと、新しい基本計画のスタートした年でもございます。

「やりたいことが叶うまち」の実現に向けて、それを実現することによって区民のウェルビーイングを醸成していくという新たなステージのスタートを切る基本計画でございますので、その初年度の評価ということで、私も大いに期待しております。

平成17年度からこの評価制度が始まりまして、今回で何と21回目というものでございます。当時、事業仕分けがはやった時代には、全国の様々な自治体でこうした評価制度を取り入れたようでございますが、少なくとも現在継続しているところはそんなに多くはないように私は聞いてございます。正直申し上げて、事務方の負担も、そしてまた担当者の負担も決して軽くはございませんけれども、私は、この21回続いている区民評価制度というのは足立の一つの自慢の施策であると自負しております。

一つは区民の皆様方に対するアカウントビリティの実現に向けて透明性を高めるという意味でも非常に重要だということ、そしてまた区民の皆様方にもご参加いただいているという点も評価していただけるものと考えております。

そしてまた、皆様方にPDCAサイクルを回していただくことによりまして区の事業であつたり施策がブラッシュアップされてさらに洗練さ

れたものになっていっているというところもございます。

そして、何と申しまして、職員の力のアップにもつながっております。単に難しいことを分かりやすく説明するというコミュニケーション能力ばかりでなく、自分の事業を俯瞰して見たり、また立ちどまってじっくり自分の事業を考えてみるといった職員としての様々な能力を高める意味でも、皆様方とのこの評価制度という関わりの中で職員が成長させていただいていることも大変ありがたいと思っております。

足立区はおかげさまで人口も 70 万人を超えておりますし、区内の至るところでエリアデザインという形のまちづくりも進んでおります。住んでみたいとか住みたいと言っていただける評価も上がってきているということで、そういうときだからこそ地に足をつけて、区民の皆様方のために何をしていかなければならないのかということや学識や当事者の区民の皆様方にもご評価いただきながら、さらに足立区を魅力的なまちにしていくためにも、皆様方にもお時間を差し繰りいただいて大変恐縮ではございますけれども、ぜひ厳しく、また様々な点からご評価いただきますようによりしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○事務局（政策経営課長） 申し訳ございませんが、区長はこの後他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

○近藤区長 また改めてお目にかかる機会を設けますので、よりしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

（区長退席）

○事務局（政策経営課長） 続きまして、次第の 4 番でございます。会議に先立ちまして、委員の皆様方に自己紹介をしていただきたく思います。

本日お配りした資料 1 の名簿をご確認ください。まず藤後会長からご挨拶いただき、その後は名簿の順番に自己紹介をお願いいたします。

なお、時間に限りがございますので、1 人 2 分程度でお願いできればと思います。

それでは、藤後会長よりご挨拶をお願いいたします。

○藤後会長 皆様、2026 年度の足立区区民評価が始まります。今日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

会長を仰せつかっております東京未来大学の藤後悦子と申します。よろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介から始めさせていただきたいと思っております。

私は東京未来大学の開学のときからこちらに勤務しております。次年度で開学から 20 年目になります。いつもいろいろなところでもお話しするのですが、私は 2 時間半かけて足立区に通っています。それぐらい、未来大も足立区も大好きで、足立区の魅力にある意味取りつかれています。その中で、この足立区の区民評価というものに関してもとても興味を持っております。

私の専門は、コミュニティ心理学と申しまして、臨床心理学的な視点をもってコミュニティの中に入っていってコミュニティの問題を住民と一緒に解決していこうというような学問でございます。実証的な知見をもって住民の方々と一緒に解決していく、まさにこれは区民評価のプロセスそのものだと思っているのです。

先ほど区長からもお話がありまして、全国を見渡しても、このように住民が参画した行政評価というのはかなり縮小されております。その中で足立区は半年かけてしっかりと丁寧にこれほどの評価を行っているということは、まさに足立区の姿勢が現われている証だと考えられます。そこで、皆様方のご専門やご経験をぜひこの会議でも生かしていただきたいと思っております。

いろいろな施策に関し改善していく点もそうですが、この区民評価自体も改善していくべきだと思っております。後ほど事務局からも説明がございまして、今年度に向けていろいろな変

更点もございます。また、ご報告になりますが、昨年度末、行政評価報告会を職員向けに行っております。その報告会自体もいろいろ工夫がなされておまして、数年前、当初はただ成果を棒読みするというような感じでした。その後、ヒアリングの様子を動画で映して提示したり、昨年度に関しましては成果が出ている課の職員の方々へインタビューをするというような内容を取り入れております。

このようにこの区民評価自体も変化しておりますので、今年度に関しましても皆様方と一緒によりよいものをつくってまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 藤後会長、ありがとうございます。

続きまして、本日オンラインでご参加いただいております荻原委員、よろしくお願いいたします。
○荻原委員 荻原と申します。よろしくお願いいたします。

本日は現地にお伺いできず、大変申し訳ございません。改めまして、東洋大学に今おります荻原と申します。

私はまちと行財政を担当させていただいております。

私はコロナのちょっと前ぐらいに着任させていただきましたので、もう5～6年ぐらいやらせていただいているのですが、先ほどお話もありましたけれども、年々いろいろ改善されてきてバージョンアップされているかなと思います。昨年からもいろいろ見直しがありましたので、今年また改めてどんな評価ができるのかなというのを非常に楽しみにしております。

まちとくらは今年2人の新しい委員の方に入っただけということ、今日は直接お会いできずに申し訳ございませんけれども、分科会でいろいろ忌憚なき発言だったりコミュニケーションを取らせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、桑原委員、お願いします。

○桑原委員 おはようございます。文教大学の桑原と申します。

私自身は文教大学の越谷キャンパスというところに所属しておまして、埼玉県に勤務しているのですが、文教大学は足立区に2021年4月に足立キャンパスを設けたというご縁もありまして、こちらで携わらせていただいております。

私はひとの分科会を担当させていただいております。

専門は臨床心理学、発達心理学ということなのですが、この評価委員というのはスケジュール的にも非常にタイトで、大変だなと思うこともたくさんあるのですが、とにかくエネルギーがすごく、職員の皆さんもそうですし、こちらの評価委員の皆さんのエネルギーも素晴らしくて、タイトな中でも私自身もエネルギーを頂けるといふところがあるので、ぜひよりよいものを皆さんたちと一緒に作り上げていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 続きまして、石田委員、よろしくお願いいたします。

○石田委員 東洋大学の石田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は区民評価は昨年度が初めてで、今年度が2年目になります。とはいえ、1年たったからといって物すごいできるというわけではないのですが、大分区民評価制度の勝手というのも分かってきて、今年は、私たち区民評価委員、そして行政の皆さんとできるだけよりよいものをつくる、よりよい制度に持っていくというふうな視点で、チーム一丸となってやっていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 学識委員の武蔵野大学の清水先生は本日ご欠席となっております。

続きまして、中村委員、よろしくお願いいたします。

○中村委員 中村です。よろしくお願いします。

担当はくらしの分科会ということで、私は今期で4回目の区民評価委員会となります。以前に環境審議会ですとか個人情報保護の審議会、あとは文化・読書・スポーツ推進委員会とかをやっております、行政の業務は非常に多岐にわたるのだなというのを知ることができました。区民評価委員会に応募したのは、業務を知った後でもっと深く知りたい、できれば評価もさせてもらえればうれしいということで評価委員会に参加させてもらっています。

先ほど区長からありましたけれども、年々、職員の対応力ですとか能力ですとか、職員の方々がすばらしくレベルアップしてきていますので、我々評価委員もレベルアップしていかないと追いついていかないだろうなということで、今回は研修がいろいろバージョンアップした研修になるかと思うので、1年目の方は、なかなか分かりにくいと思うのですが、研修で能力を磨いていただければと思います。

私は前職はコンプライアンス関係の仕事をしておりまして、そういった観点からも何か対応ができるのかなという感じでやっております。

よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 続きまして、本日オンラインでご参加いただいています野本委員、よろしくお願いいたします。

○野本委員 体調不良で急遽オンラインで参加させていただいております。

私は2年目になるのですが、まちと行財政」を担当させていただいております。

足立区に住んで5年目で、もともと育った地域とかは全く違うところなのですが、新宿区

から転入して足立区は5年目というところで、普段は会社員で勤めながら大手町に勤務しているのですが、こちらの足立区に住まいを移してから2人子供を産んで育てているというところで、会社員、さらには2人を育てる母として、足立区の行政に何か新しい視点ですとか客観的な意見をできたらなと思ってこちらに参加させていただいております。

2年目とはなるのですが、まだまだ皆さんにお力添えいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 野本委員、ありがとうございます。

続きまして、丸山委員、よろしくお願いいたします。

○丸山委員 丸山と申します。よろしくお願いいたします。

私も今年2年目ということで、前はどのようなふうに進めていったらいいのかなと思いながら、分からないながらも、数か月間、結構タイトな感じでスケジュールを調整するのがかなり大変だったのですが、何とかやることができました、今年は自分の意見をもうちょっと言えればなと思っています。

普段は行政書士の仕事をしていまして、ほかの区であるとか、市であるとか、そういったところの行政と対応するようなことになるのですが、このお仕事を去年やらせていただいて、行政というのはこういうところだなということを勉強できたのと、さらに、足立区とほかの区とか、足立区とほかの市とか、そういったところの対応力みたいなものを比較できるようになりまして、ここは足立区のほうがいいなとか、こっちは葛飾のほうがいいなとか、施設についても、足立がいいなとか、ほかがいいなとか、そういったことも参考にさせていただきながら業務を進めております。そういった意味で大変勉強になるお仕事だと思いますので、今年も何とか頑張って数か月間を終わらせたいと思っています。

足立区に越してきましたまだ3年ほどしかたっておりませんで、初めは足立区のことを知りたいなと思うことから始まったのですが、今回については、足立区によりよい区になってもらいたい、少しでも力を貸すことができればと思っていますので、いろいろまたご指導いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、柳原委員、お願いいたします。

○柳原委員 柳原と申します。よろしくお願いいたします。

私も2年目になりまして、昨年は「くらしと行財政分科会」に参加させていただいて、今年は変わって、「ひとと行財政分科会」に参加することになっております。

昨年1年間参加して感じたことは、普段見ないというか、普段だと絶対に気づかない部分がすごく分かったというところがあったりとか、事務局の方たちがすごく頑張っている姿みたいなものも見せていただきましたし、逆に、もうちょっとこういうふうにやったらいいかなと思うことも結構あったりしたのですが、ほかの方たちにも支えられて、自分も学びながらいろいろできたことがすごくよかったかなと思っています。

普段の仕事としては、私はインキュベーションマネージャーという形で、これから起業する方たちのための支援みたいなものをしていまして、特に足立区で起業する方に支援をするような仕事をしています。足立区はほかの区に比べて助成金とか補助金とかが結構充実しているんですね。そのあたりをいろいろ話していくうちに、足立区のことをもっと知りたいなとか、ほかの方たちにこういう点がいいところですよみたいなことを伝えたいということがあって、こういった形で参加させていただくことになりました。

また今年も1年いろいろと考えさせられるこ

とがあったりとか、自分も学んでいかなければいけないこともあるかと思うのですが、皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、渡辺委員、お願いいたします。

○渡辺委員 渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

評価委員は2年目になります。

簡単にバックグラウンドを説明いたしますと、私は足立区に転入いたしまして約10年生活しております。

このたびの評価活動においては、デジタルの知見と障がい当事者の知見の、2つの軸でお手伝いできればと考えております。

職業としては、数年前からフリーランスをしているのですが、それ以前は約20年間、総合広告代理店で主にデジタル領域の仕事をしていました。

また、障がい当事者としては、精神障がい18年で、身体が約5年となります。そのため、足立区の医療・福祉には大変お世話になっています。制度や支援を利用する側の実感も踏まえながら意見を述べさせていただければと思っています。

私の精神障がいの特性として、長時間集中した後には強い疲労が出たりする場合がございます。ですので、こういった緊張するような会議は結構疲れるのですが、できる限り体調を整え参加していきたいと思っていますので、ご理解いただけますと幸いです。

よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

小泉委員は本日ご欠席でございます。

続きまして、島田委員、お願いいたします。

○島田委員 島田です。今期から初めて委員を務

めさせていただきます。よろしくお願いします。

普段はIT系の企業で会社員として勤めています。

私の出身というか実家が足立区谷中でして、今は足立区の中川に子ども3人の5人家族で住んでいます。なので、足立区にかなり長い期間お世話になっています。あと、感じるのは、私が子どものころに比べて今はすごい住みやすくて明るいまちになっているなと思っていて、こういった評議会の活動がそういった結果につながっているのかなと感じています。長年足立区にお世話になっているので、何か恩返しができればと思い、この活動に参加させていただきます。

よろしくお願いします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、田中委員、お願いいたします。

○田中委員 今期から区民評価委員となりました田中千裕と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は足立区生まれ、足立区育ちで、島田さんと同じで、ずっと足立区に住んでおります。子どもが3人おりまして、子どもが生まれてからは、くらしに直結している行政というものにすごく関心を持つようになり、選挙に行くことぐらいしか関わることはできないと思っておりましたが、足立区はこのようなすばらしい区民評価委員という制度があるということを知り、今回応募させていただきました。

私自身は保育の仕事をずっとしてきておりまして、20年以上保育のお仕事をさせていただいて、保育園の園長としての経験もございます。

今現在は、忙しくて時間がないと感じている方、保育・教育の方だったり、子育てでやりたいことが実現できないと感じていらっしゃる方に向けて、時間と心に余裕を持って真っすぐお子さんと向き合えるようなサポートをさせていただいています。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、谷委員、お願いいたします。

○谷委員 初めまして。谷まどかと申します。

私は今期から初めて参加させていただくのですが、すけれども、私も、何人かいらっしゃったかと思うのですが、足立区出身で、足立区に住んでいます。

普段は会社員として、主に企業様、法人のお客様に対して、対応課題に対してクリエイティブの領域で解決するということで、採用ホームページだったりとか、そのほか各種企画を企画して販売して納入するというところまで一貫して対応しているようなお仕事をしています。

ぜひ皆様のお力添えを頂きながらお役に立てたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、野倉委員、よろしくお願いいたします。

○野倉委員 おはようございます。よろしくお願いいたします。改めまして、野倉と申します。

私も今年から委員をさせていただいておりまして、一般事務事業を担当させていただければと思っております。

普段は、足立区の中と、今の担当としては文京区の中で子どもたちの居場所づくりとかユースセンターといったものをつくるお仕事をNPO法人で実施しております。

委員に応募したきっかけで申しますと、私自身が足立区に引っ越してきたのは2019年なので、約7年ほど住んでおりまして、子どもが1人、4歳の娘がおりまして、子育てをしている当事者というところと、子どもたち、中高生世代とふだん話すことが割と多いので、足立区出身の子どもたちに話を聞いたときに、ちょっと足立区のことを自虐的に話してしまうみたいな子たちも一部い

るのですけれども、私の住んでいる実感としては、特に直近の数年で言うと、足立区のイメージがアップしているというところを私自身も感じていたりするので、そのあたりのギャップが埋まっていったり、シビックプライドといいますか、子どもたちに足立区で育っているということが自慢できるというか、いいまちだなと感じて住んでもらえるようになったらいいなみたいなところが思いとしてはあって、応募させていただきました。

分からないことがかなりあって、ご迷惑をおかけしてしまわないように頑張りたいなと思っているのですけれども、よろしくお願いいたします。
○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

続きまして、松原委員、お願いいたします。
○松原委員 松原博です。どうぞよろしくお願いいたします。

まち分科会の新任としてご厄介になりたいと思っています。

今回応募したのは、募集した際の文章に、足立区をもっとよくしたい、その気持ちだけでオーケーというくだりがありまして、これに心を動かされました。

私はいわゆる評判の悪い団塊の世代という世代なのですけれども、生まれてこの方 70 数年間、現役時代の転勤時以外は、それと結婚直後はあったかな、それ以外は足立区の今現在住んでいるところにずっと住んでおります。その意味で本当に住みやすくなったなという実感はあります。

今後、この委員を仰せつかったので、もっとよくなる足立を見届けたい、そこに少しでもお手伝いできたらなと思っています。

よろしくお願いいたします。
○事務局（政策経営課長） ありがとうございます。

虎岩委員は、先ほどご案内したとおり、本日ご欠席でございます。

改めまして、委員の皆様、ありがとうございます。

した。

次に、事務局職員の紹介をさせていただきます。

○事務局（政策経営部長） 皆様、おはようございます。政策経営部長の岩松と申します。皆さんと一緒によりよい足立区にしていきたいと思うますので、どうぞお力を貸してください。よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 改めまして、政策経営課長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（財政課長） 皆様、おはようございます。財政課長の菊地と申します。私は一般事務事業の財政課を担当しておりますので、メインでこちらの担当をさせていただきます。様々、事務事業に課題のあるところがありますので、皆様方の忌憚のないご意見を頂戴できればと思っています。1 年間よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 政策経営課の鶴巻と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 政策経営課の高田と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当） 政策経営課の仲村と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（財政担当係長） 財政課の田栗と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（財政担当係長） 同じく財政課の高崎と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 以上のメンバーで皆様の審議が円滑に進むよう全力でサポートさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行は藤後会長にお願いいたします。

○藤後会長 それでは、会議次第に沿って会議を進めさせていただきます。

ご意見、ご質問がある場合は、説明後に承りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次第 5 について、事務局より説明をお願いいた

します。

○事務局（政策経営担当係長） それでは、お手元の資料2をご覧ください。

表紙を1枚おめくりいただきまして、2ページ目になります。

まずは足立区の行政評価の狙いです。新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、資料に沿って説明させていただきます。

足立区の行政評価の狙いは、こちらの4点となります。

まず1点目、「区民に対する説明責任を果たし、協働・協創を推進する」。

区として、自分たちがどのような活動をしているのか、その結果がどのようになったか、どれほどのコストがかかったかなどを見える化し、区民の方への説明責任を果たすことで区民の方々の信頼関係を築き、協働・協創関係を推進していくということです。区民評価委員会の評価活動では事業の所管課が委員の皆様にしっかり説明してまいります。そのコミュニケーションを通して区民の皆様と信頼関係を築き、説明責任を果たしていくことを狙いの一つとしております。

2点目、より一層、成果重視の区政をめざし、重点プロジェクトを中心とした基本計画の進捗管理を行うという点です。

区では、どれだけ活動したかだけではなく、その活動をしたことでどれだけの成果が上がったかという視点で区政を運営しております。また、重点プロジェクト事業と位置づけている事業を中心に評価を実施することで基本計画の進捗管理を行っています。

3点目、「PDCAのマネジメントサイクルを確立し、戦略的な区政経営を行う」という点です。

行政評価は評価すること自体が目的ではありませんので、評価した結果をその後の予算編成に反映させていくことで戦略的な区政運営を行っていくこととしております。

4点目、「職員の意識改革を進め、政策形成能

力を高める」という点です。

区民評価委員会の評価活動の一環として、委員の皆様と職員との間でヒアリングを行っております。例えばヒアリングの資料作成では、どのようにご説明すれば委員の皆様には伝わるかなどを意識しながら取り組んでおりますし、一連の行政評価に関する活動を通して、職員一人一人が、区民の方々が何を求めているのか、現状のままでいいのかといったことを自らに問いかけながら業務に向き合う機会となっております。その積み重ねが政策の形成能力を高めていくことにつながっています。

それでは、3ページ目をご覧ください。

ご説明したとおり、区の事業はPDCAサイクルを意識しながらブラッシュアップすることとしております。計画を立てて事業を実施するだけではなく、その後にCheck、必ず評価をしております。そして、評価することによって課題や改善点が見えてきますので、その課題や改善点に基づいてAction、次の事業の改善につなげていっております。これをただ単純に一周回すのではなく、スパイラルアップさせ、よりよい事業に高めていき、最終目標である基本計画・基本構想の実現につなげていくのが足立区の行政評価制度の仕組みとなっております。

足立区では3段階で評価しております。自己評価として事業所管による一次評価、次に二次評価として庁内で評価、そして三次評価として外部評価を行っています。足立区では、学識の委員だけではなく、公募の委員の区民の方の視点が入っているという点にも特徴があります。その目的としては、評価の客観性を高めるところと、区民目線を取り入れて改善につなげていく、そして対話によって説明責任を果たしていくということも目的としています。

4ページ目をご覧ください。

こちらのスライドは、区民評価委員会の1年間のおおよそのスケジュールなどを示したもので

す。

ひと・くらし・まち分科会のスケジュールと一般事務事業のスケジュールは多少時期が異なりますけれども、それぞれが6月～7月にかけて対象事業の所管課のヒアリングを行い、分科会としての提言をまとめていきます。

これらを踏まえて会長が総括評価をまとめ、8月21日の第2回全体会で報告書案について確認していただき、9月3日に会長から区長へ答申を行う予定です。評価結果は各部の事業改善にもつなげていきます。

こちらの図でも区長答申から矢印が下に伸びて分岐しておりますが、予算のかからないような事業改善や見直しの検討には年度内の下半期に取り組んでいます。

取組結果を取りまとめて、2月頃には反映結果報告書を作成します。

また、区民評価の結果は次年度の予算編成にも生かされ、評価結果を踏まえて各部は次年度の予算編成を行っています。

続きまして、5ページをお願いします。

区民評価委員会の活動に関しましては、皆様から頂きましたご意見やご提言などを踏まえて改善を行ってまいります。

今年度の取組は、次の4点です。1点目は「ヒアリングにおけるコミュニケーションの活性化」、2点目は「各事業の評価や経緯の把握」、3点目は「会議録の公開」、4点目は「視察の実施、他分科会へのヒアリング参加」になります。

6ページ目をご覧ください。

ヒアリングにおけるコミュニケーションの活性化を図ってまいります。

提言に対する区の実行や受け止めを確認するための時間をヒアリングの中に設けることで区民評価委員と各所管課との認識のそごをなくすことを狙いとしています。これまでもヒアリング時間の延長など、円滑なコミュニケーションに資する取組を行ってまいりましたが、より率直な意

見交換ができればと考えております。

続いて、7ページ目にお入りください。

昨年度、委員の方からの要望で、皆様にアンケートを実施させていただきました。先ほどお話もありましたけれども、区民評価委員会の質の向上も必要なのではないかというところにつきましてはご意見を頂いたところでございます。過去の評価の経緯や課題などの把握も必要というご意見なども頂きました。

そこで、分科会ごとに必要な書類等を活用した研修を行い、事業の概要、過去の評価の経緯、課題点などを把握してまいります。

続いて、8ページをご覧ください。

こちらアンケートに基づいておりますが、評価対象から外れる事業につきましては、皆様から取組状況を確認したいなどのご意見がございましたので、事業の取組状況を確認し、お示しさせていただきます。

続きまして、9ページ、10ページをご覧ください。

会議につきましては、足立区区民評価委員会条例施行規則第4条に基づき、原則公開となっております。評価活動につきましては、自由な議論に支障が生じるおそれがございますため、これまで非公開としてまいりました。今年度につきましても同様の運用とするかは、この後、委員会に諮らせていただきたいと思います。

会議録につきましては、足立区審議会等の設置及び運営に関する指針に基づきまして、区民評価委員会の活動は全文筆記で作成させていただき、ホームページで公開となります。ただし、非公開の会議につきましては会議録は非公開とさせていただきます。

音声データにより会議録を作成するため、発言の際は、分科会長が指名するとか、発言の冒頭に委員の誰々ですと述べていただくなどの運用をお願いしたいと思います。

続きまして、11ページになります。

昨年度に引き続きまして、各分科会において1事業ずつ現場視察の実施を予定しております。現在、視察の候補をピックアップしておりますので、後ほどご連絡させていただきます。

続きまして、12 ページです。

今年度も各分科会のスケジュールを共有し、任意でほかの分科会のヒアリングに参加できるようにいたします。

ただ、1点注意点なのですが、ほかの分科会への任意の参加となりますので、報酬は発生いたしません。そして、交通費もご自身でご負担いただくこととなりますので、あらかじめご了承ください。

続きまして、13 ページに入ります。

各分科会の構成及び評価事業について。

14 ページをご覧ください。

足立区基本計画は、区の将来像の実現に向けて各施策を体系的に整理した区政運営の指針であるとともに、分野別計画の基本となるものです。

重点プロジェクト事業はその中に位置づけられておりまして、ひと・くらし・まち・行財政という4つの視点で事業を整理しております。この4つの視点のうち、行財政につきましては、ひと・くらし・まちの近い内容で各分科会に分けております。

また、基本計画の層の一番下に事務事業が位置づけられております。足立区が実施する全ての事務事業を合わせると約 650 ほどございますけれども、これらのうちの一部、課題のある事業を抽出し、「一般事務事業見直し分科会」で評価していただくこととなります。

各分科会で評価していただく事業は6～7事業になります。一般事務事業につきましては決算後に事業を抽出するという流れになりますので、今どの事業と決定はしておりませんが、おおむね7事業程度となるかと思います。

続きまして、15 ページに入ります。

令和8年度に評価する事業は、令和7年度に実

施した事業となります。

お手元の資料4の裏面には、分科会ごとに各事業のヒアリング日程を載せております。また、資料3は、こちらは重プロになりますけれども、年間の評価活動の流れとなっております。お時間のあるときにご覧ください。

続きまして、16 ページに入ります。

表彰制度についてです。

平成29年度から区民評価委員会からの提案を受けて実施しております表彰制度の目的は、各プロジェクトのさらなる推進と評価事業の円滑化、協創をサポートするため職員力を高めることということで、その視点といたしましては、評価活動に対する所管課の参加度や理解度という観点から、区民への説明責任を果たすことに貢献した事業を分科会ごとに選定していただいているものです。ご参考までに、令和7年度に分科会ごとに選定していただいた事業を掲載しております。

今年度も各分科会から表彰事業を選定していただきたいと考えております。

以上が事務局からの説明となります。

○藤後会長 今の事務局の説明について何かご意見、ご質問があれば、ぜひよろしく願いいたします。いかがでしょうか。

せっくなので、私から1点お伺いしてよろしいですか。

事務局にお伺いしたいのですが、12 ページの他分科会のヒアリングに関してですが、これはオンラインでの参加は可能ですか。

○事務局（政策経営担当係長） はい。昨年度令和7年度もオンラインでご参加していただいておりますので、オンラインは可能です。

○藤後会長 ありがとうございます。

ほかに皆様、いかがでしょうか。

○事務局（政策経営課長） すみません、1点だけ補足させていただきます。

先ほど議事録作成についてのお話がありました。区として今年の4月1日から議事録作成に

関してのルールが少し変わっております。そのため、昨年はここまで丁寧なご説明はなかったかと思うのですが、これまで、分科会ごとの評価活動について、明確な議事要旨の作成までは行っていなかったのですが、今年度からはそちらについても音声を取らせていただき、基本的には文字起こしでの全文筆記という形にさせていただきますと思っています。区として区政の透明化という観点でいわゆる審議会の活動でどういう議論が行われたかどうかということをもう少し丁寧に残しておくべきだというような区議会からの要望もあり、このような形で少しルールを変えているところでございます。非公開のものなので、基本的には話し合われたものが表に出るということはないのですが、区としてこういったご提言を皆さんから頂いているかというのをきちんと全文筆記という形で残しておくということで、少し区のルールが変わっている関係でこのようなご案内をさせていただいているところでございます。

以上です。

○藤後会長 ありがとうございます。

ほかに皆様からご質問、ご意見、いかがでしょうか。

よろしく願いいたします。

○野倉委員 委員の野倉です。

先ほどスケジュールとほかの分科会への参加についてご説明いただいたのですが、一般事務事業はヒアリング日程が資料だと未定といいますか、期間だけ定まっていってという形だと思うのですが、こちらは本日ではなくて、また後日決定したもののご連絡が皆様に行くという形でしょうか。

○事務局（財政課長） 事務局の財政課からご説明させていただきます。

この会の後に分科会ごとに分かれましてご説明の機会がございます。こちらで数字をお示しさせていただきますと思いますので、そちらでご案

内させていただきます。

以上です。

○藤後会長 ほかにいかがでしょうか。——よろしいでしょうか。

また何かありましたら、途中でもお声がけいただければと思います。

ありがとうございます。

それでは、先ほど事務局から説明のあったとおり、分科会につきましては、「ひとと行財政分科会」、「くらしと行財政分科会」、「まちと行財政分科会」、「一般事務事業見直し分科会」の4分科会に分かれて活動してまいります。資料1の裏面をご覧くださいますと、区民委員の皆様の構成が書かれております。この案は、事前に皆様にご関心のある分野をお聞きした結果、分科会の目的や委員の皆様の経験等のバランスを考慮して事務局が作成したものです。この案に基づきメンバー構成を決定したいと思いますけれども、いかがでしょうか。これはあくまでもまだ案の状況ですので、もしご意見がないようでしたら、ご承認いただければと思います。——よろしいですか。

それでは、分科会の構成につきましては資料のとおり決定させていただきます。

続いて、答申に当たりましては、第2回全体会で各委員から頂いた意見を基に、私と事務局で最終的な区民評価委員会活動報告書をまとめる形でご一任いただければと思います。これに関してもよろしいでしょうか。——はい。

続いて、会議の公開についてです。先ほど事務局からもご説明がございました資料5の足立区区民評価委員会条例施行規則第4条の規定に基づき、本全体会及び分科会は公開が原則となっております。ただし、評価活動につきましては、自由な討議に支障が出るおそれがあるという判断からこれまで非公開としておりました。今年度の分科会につきましても同様の扱いでよろしいでしょうか。多分、新規の方はイメージがつきづらいかもしれないですが、——はい。

それでは、そのようにさせていただきたいと思
います。ありがとうございます。

今までの説明につきまして何かご意見、ご質問
があれば確認させていただきたいと思いますが、
いかがでしょうか。——よろしいですか。

これで大丈夫ですか。事務局の方はよろしいで
すか。

すごく早く流れが進んでおります。これで第1
回区民評価委員会を終了にいたします。スムーズ
な進行にご協力いただき、ありがとうございます。

全体会はここで閉会とさせていただきますが、
これから後ほど分科会に分かれてスケジュール
等の調整があると思います。

今後の活動の予定につきまして事務局から連
絡がございますので、よろしくお願いいたします。
○事務局（政策経営課長） 藤後会長、ありがと
うございました。

それでは、次第の6「分科会別今後の予定につ
いて」を含めて、幾つか事務連絡をさせていただきます。

今後のスケジュールについては、分科会ごとに
分かれて評価活動を行っていきます。令和8年度
につきましては、「ひとと行財政分科会」は鶴巻、
「くらしと行財政分科会」は仲村、「まちと行財
政分科会」は高田、「一般事務事業見直し分科会」
は田栗、高崎が担当となります。この後、分科会
ごとに分かれて、先ほどもございましたスケジ
ュールの確認などをさせていただきます。

最後、お車でおいでの方は、駐車券のご用意が
ございますので、事務局にお声がけいただければ
と思います。

連絡事項は以上となります。

本日はありがとうございました。